

令和5年8月1日

みらいだより



園長 中川 宏美

今年の夏も猛暑です。園の活動でも熱中症予防に十分配慮して過ごしています。

子どもたちは、夏祭りや3年ぶりに復活のそうめん流しの準備を楽しんでいます。

家で過ごす機会も多くなる8月。園ではできない体験をした子どもたちは「海に行って泳いだよ」「山でキャンプしたよ」「プールで滑り台をすべって楽しかった」と、いきいきと話してくれます。熱中症など健康管理に十分気をつけてお過ごしください。

| 8月 | | | |
|----|----------|---|----------------|
| 月 | 日 | 曜 | 行事予定 |
| 8 | 7 | 月 | ゆめのはこども園とリズム交流 |
| | 8 | 火 | (ひかり) |
| | 9 | 水 | そうめん流し |
| | 12 | 土 | お弁当の日 |
| | 17 | 木 | 身体測定(0・1・5歳児) |
| | 18 | 金 | 身体測定(2・3・4歳児) |
| | 26 | 土 | 夏祭り お弁当の日 |
| | 28~9/9 | | 個人懇談(希望者) |
| | ※変更の場合あり | | |

4歳児保護者交流会

「子どものころよく遊んでいた遊びは？」

「山で基地を作ったり、虫を取って遊んでいた」

「田んぼでおたまじゃくしや蛙を捕まえていた」

「木登りをして遊んでいた」

「かくれんぼや鬼ごっこをして遊んでいた」

「寒い地域に住んでいたのでスキーや雪合戦をして

いた」「公園で野球をして遊んでいた」

子どもだったとき思い出す

自分が子どもだったころに抱いていた感覚を思い出すことで、同じ時間を一緒に生きている子どもとの関係性をフラットにするいい機会になりました。

子どもの遊びと脳(前頭葉)

早稲田大学教授：前橋 明

○全力で鬼ごっこをしたり、木から滑り落ちそうになるのを必死でこらえたりすることで**交感神経**が活性化する。○友だちとの遊びを通して人と関わる中で、成功と失敗を繰り返すことで、思いやりの心や将来展望の持てる人間らしさが育つ。

○熱中して遊ぶと運動エネルギーが十分発散され、**情緒が安定**し、さらに時間の流れや**空間の認知能力**も発達する。○相撲や取っ組み合いをすると、興奮と抑制をうまく具合に体験し、**脳を育てる**。

※遊びは、子どもの健康づくりや人間形成、心の育成など重要な位置を占めることを再確認しました。



絵本は魔法の力

子どもはお話が好き、絵本が大好きです。

絵本を読んでもらっている子どもは、言葉の発

達が多く表現も豊かです。言葉は、**考え**、**思い**、**学び**、**伝え**あうための手立てです。言葉が豊かになることは、考えや思いが豊かになることでもあります。乳幼児期の、大人から子どもへの語りかけや、絵本を読んであげるといふ、温かいふれあいを通して、言葉がより豊かに育っていきます。

絵本を読む楽しさを伝えることは、大人から子



どもへの生涯の贈り物だといえます。子どもにとって、「愛された」実感につながっているのではないのでしょうか。



どんぐり組(0歳児)：「ぶにぶに、ぐにゃぐにゃ」

初めて触る寒天に指先を入れたり、つまんでみます。手のひら全体を使って寒天の感触を確かめます。握ると寒天が小さく潰れる様子をじっとみます。いろいろな素材の感触を味わって遊んでいます。



たけのこ組(1歳児)：「自分で！」

食べ終わると、「じぶんで」と陶器の食器をそっと運び、同じ形の食器の上に重ねていきます。残った食材は、残飯入れのバケツに入れます。食器や食材を落したりうまくいかない経験をしながらできるようになっていきます。

りす組(2歳児)：「変わる変わる！」

「ころころするよ」ローラーをかけ平らになった砂地をじっとみます。「パタパタするの～お料理するの」砂を押し固めます。「トントンしたらケーキみたいになった」砂や泥が変化していく過程に、興味津々に友だちと共有しながら繰り返し試していました。



うさぎ組(3歳児)：「かわめっちゃあるわ～」

「とうもろこしの皮は、虫から食べられないようにたくさんついてるんだって」「お～これがとうもろこしか」「わっ、くさっ。変なおいがする」「ひげが生えてる」「皮かたいね」「黄色いつぶつぶがでてきた～」給食のお手伝いをしながら、五感で野菜の性質を感じています。

そら組(4歳児)：「真剣勝負」

「ポートルースの決勝戦やりたい」「背中つけるんよ」「歩くのなしね」「がんばれ～」「もうちょっと」応援にも力が入ります。「1位になれなかった・・・」と悔し涙を流すことがあります。ルールの必要性や、自分の気持ちを調整する力が育っていきます。



ひかり組(5歳児)：「せーのっ！」

「そうめん流しに使う竹は、どれぐらいの長さでどれぐらいの太さがいいの」「手でつかめないくらい太いの」「長さは3m?」竹をきっていくと、ミシッミシッと音が聞こえ「竹はどっちに倒れるのかな」「あっ倒れそう」「押してみる」「もうちょっと」「危ないよ気をつけて」友だちと協力して切った竹を持ち帰り、「ただいま～、流しそうめんこれでできるよ」